

本号の特集は肝線維化である。古くから、肝線維化進行例(=肝硬変)では、肝細胞癌(肝癌)発生のリスクが高いことが知られてきた。では、「肝線維化」は直接的な肝発癌リスクなのだろうか？これには、まだ結論が出ておらず、いくつかの論点が存在する。

① 肝線維化と肝発癌は、どちらも長い期間をかけて、そのプロセスが進んでいく。したがって、肝癌発生時には肝硬変になっていることが多い。だからといって、因果関係があるとはいえない。② 日本のような「C型肝炎先進国」でのみ解明されてきたことだが、高齢者(概ね70歳以上)では、肝硬変になっていなくても肝発癌リスクが肝硬変のように高まる。米国のように、C型肝炎患者の年齢がまだ非高齢の場合には、「C型肝炎では(必ず)肝硬変を経て肝癌となる」と考えてしまいがちであるが、「高齢C型肝炎患者では肝硬変を経ずに肝癌となる」のである。③ そもそも、肝硬変=(高度)肝線維化ではない。肝硬変の「再生結節」にある肝細胞には、正常肝細胞とは違った性質がいくつか指摘されてきている。一例を挙げれば、テロメアの短縮がある。肝硬変の肝細胞では、DNAの傷害から染色体を保護し、物理的・遺伝的な安定性を保つ働きをするテロメアが短縮することで、発癌に対する閾値が低下している。C型肝炎でSVR(ウイルス学的著効)になったからといって、これは修復されない。あるいは、修復には長期間を要する。

C型肝炎ウイルスを駆除できるようになり、NASH/NAFLDが肝疾患診療の中心になってきて、肝線維化に対する注目度は、大きく上がってきている。本特集では、最新の知識と診療ノウハウをお忙しい先生方にご執筆いただいた。この場を借りて、篤く御礼申し上げたい。

(小池 和彦)

臨牀 消化器内科® Vol. 33 No. 13

©2018年11月20日発行

定価(本体2,750円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2018. Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・JCOPY® <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791